

## 第4回 策定委員会 委員意見提出シート取扱方針

No.	項目	意見要旨	取扱方針
1	新たな担い手	<p>「福祉」は固いというイメージがあるから、その敷居を下げるきっかけ作りに賛同します。もっと福祉のことを柔らかく、大づかみに理解する機会があってもいいのではないかと思います。その一案として、委員会に集まっているようなメンバーが順繰りに登壇する「ふくしcafé(bar)」とかを試みてもいいと思うのです。大事なことは、いかに福祉というキーワードを身近に感じることができるか、そして自分のできる範囲、まずは楽しめることで参画できるのか、その垣根は低くできればできるほど良いと思います。同時に、福祉以外の分野で活躍する人(まちづくり、市民活動など)も巻き込んでいくことで、もっと課題解決のために投じることができる資源(マンパワー、知恵など)が増えていくと考えられるので、今後は、福祉団体だけで福祉を考えるのではなく、様々な分野を越境していくことが大事だと思います。</p>	中間まとめ(案)の中に記載していきます。
2	地域の福祉活動を支える	<p>地域福祉コーディネーターという形式に縛られず、「今あるコーディネーターに繋ぐ役割」を担うということに賛同します。同時に、コーディネーター職のネットワーク化を進めるために、地区ごとに繋がりを深めておく機会は大事だと思います。そして、「コーディネーター職の専門性・連携体制の強化」を図るために共に学びながらシナジーを発揮できるようになりたい(地域福祉ファシリテーター講座等を活用しながら)。また、上記を鑑みると、社協のスタッフの方も、今のように3地区を一人ずつというのは体制的に難しいので、地区を細かく分けるか、1地区の担当を2人以上にする方向で検討するべきかと思います。</p>	第5回策定委員会で検討していきます。
3	地域の福祉活動を支える	<p>いづれにしろ、人材を育てることが第一と思います。人材を育てるといって難しく考えがちですが、仲間づくりです、仲間づくりのために飲んだり、食ったりすることも大事ですが、いつも目的を心の中にしっかり持っていないと流されるでしょう。目的を持つためには、リーダーになった人は勉強が必要だと思います。多くの人が勉強すれば会は大きくなるでしょう。</p>	中間まとめ(案)の中に記載していきます。
3	その他	<p>・議論を進めた結果として、各委員の3次計画ないし現状の社協を軸とする福祉活動についての見解の相違(認識のずれ)が出てきているように思います。(私的には振り返りが不十分と思います)単純に言えば、「現状は十分ではないがうまく進んでいるので改善をしながらさらに進める」のか「現状は明らか問題があり改革をする必要がある」のかをきっちり再度議論するべきではないでしょうか。ここをあいまいにして進めるならこれ以上の議論は混乱を生むだけであり、必要ないと思います。そのような計画でよいとは思いませんが・・・</p>	第5回策定委員会で、計画の骨子(案)について検討する部分で、確認していきます。

## 第4回 策定委員会 委員意見提出シート取扱方針

		質問	回答
3	その他	ファシリテーター養成講座は今期は何人希望し、費用はいくらかかるのでしょうか。今まで何人受講し、その後ボランティアに参加している人は何人でしょうか	平成30年度:受講者9名(うち1名は途中で受講辞退) 予算:350,000円(市からの委託) 平成20年度(1期)~29年度(9期)までの修了者89名 ファシリテーター養成講座修了後にグループ活動している団体は、3団体。グループではなく個人でボランティア活動している方々の正確な人数は把握できていないが、元々、地域活動やボランティア団体に所属して活動していた方が多い。
3	その他	シニアポイント制度について、今年で3年目ですが、今までボランティアしたことがない人で、新しくこの制度に入って来た人は何人でしょうか	特にアンケートをとっているということではないため正確な数字は把握しておりませんが、還元に来所されたサポーターに聞き取れた範囲で伺ったところ、平成28年度は5名。平成29年度は2名でした。